



「運営体制の見直しについて」に関する申し入れを行う！

地本は運営体制の見直しの提案と説明を受けました。本施策では私鉄との乗換駅である西船橋駅と大原駅のみどりの窓口を閉鎖するというものであり、JR東日本だけではなく、各私鉄会社にも関わってくる施策になります。

この間、「変革2027」の中で謳われている、「駅を通過する場から集いの場に変革する」というbeyond station構想の実現に向けて様々な施策が行われています。一方、施策によりさまざまな歪みが発生しており、チケットレス化を進めていく中でそれを使用できないお客さまへの対応、操作が複雑なえきねっと、みどりの窓口でしか対応できない取り扱い、指定席券売機を操作するにあたっての複雑な操作や営業規則・制度、話せる指定席券売機の徒列など、職場ではbeyond station構想に向けた過渡期中で、お客さまへのサービスの在り方に悩み、課題を乗り越えるために日々苦闘しています。将来を見据え、現在を変革することは否定しませんが、変革の過程では様々な局面から表れている事象を改善していかなくては良い施策にはなりません。

提案後、職場では「他会社との調整をこれから行って実施日に間に合うのか？」「お客さまのご利用が戻ってきている中で、みどりの窓口を閉鎖してしまい、十分なサービスができるのか？」「次期ダイヤ改正で房総特急が全車指定席になる中で、指定席券売機だけでは対応ができるとは思えない」「みどりの窓口が残る駅の負担が増えてしまう。要員も増えない中で他駅から流れてくるお客さまの対応ができるのか？」など、不安の声が多く上がっています。

組合員が「安全・健康・ゆとり」を持って働ける施策にするため、以下の9項目を申し入れました！

【申し入れ項目】

1. 「変革2027」で示された駅の将来像であるbeyond station構想に向けて、現時点の成果と課題を明らかにすること。
2. チケットレス化やみどりの窓口の廃止等によって販売体制が変化する中で、営業規則や制度を学び実践する機会が減少することから、どのように営業職場の技術・技能継承を実施するのか明らかにすること。
3. 「組織の再編」施策以降、企画業務の一部が駅職場に移管されたが、企画業務の遂行や教育ができない、複数駅勤務の見習いができないという事象が発生しているため、十分な要員を確保すること。
4. 2024年3月期ダイヤ改正における房総特急の全車指定席化実施前に、券売機の混雑緩和のため、特急停車駅にえきねっとの受取り機を設置すると共に、えきねっとが使用できないお客さまに寄り添うため、「旅の相談窓口」を特急停車駅に設置すること。
5. 私鉄との乗換駅である西船橋駅と大原駅のみどりの窓口の閉鎖については、関係私鉄会社との協議を十分に行い、双方が納得した上で実施すること。それができない場合は、施策を見直すこと。
6. 施策実施後の西船橋駅の体制を明らかにすると共に、401POSの設置と、払戻や指定席の座席取り消しの取り扱いは、本屋改札で行うこと。また、それに対応する要員を確保すること。
7. 施策実施後、近隣の駅にお客さまが流動することが予想されるため、市川駅と船橋駅のみどりの窓口の営業時間を8時から19時に延長すると共に、出面数を一般変形で1増員すること。
8. 異動が発生する場合は、本人が描くキャリアプランを最大限考慮し、面談やコミュニケーションによって納得感のある異動とすること。
9. 施策実施後に労使が検証を行い、問題等が生じた際は協議すること。

団体交渉の実施は 12月26日(火) に決定！
納得感のある施策にするため、皆さんの声を基に交渉します！